

# 小学生が関空で

## 外国人旅行者をおもてなし

大阪国際大学地域協働センターは、「大学は地域に育てられ、地域も大学によって育てられる」をスローガンに、様々な地域貢献活動に取り組んでいる。なかでも、「OIU/OICキッズキャンパス」は、同大学、教職員、守口市社会福祉協議会、守口市民生委員児童委員協議会、守口市立よつば小学校など



「アンニョンハセヨ」韓国から日本へようこそ!

が実行委員会を立ち上げ、子どもたちの「学習支援」や「居場所づくり」を行っている。地域と大学との密接な連携協力と学生ボランティアのサポートによって毎月イベントを開催。「スポーツ教室」や「手づくり食堂」など、大学を拠点にした活動だけでなく、京都南山城村での「田植え体験」、「稲刈体験」など、自然を享受する野外活動など広範囲な活動を展開している。「キッズキャンパス」の特徴は、大人からの一方的な働きかけでなく、子どもたちが自発的に誘い合わせて参加してくることだ。大学生や地域の大人との交流で好奇心が刺激され、未知の体験が子どもた

アメリカ人旅行者の通訳をする大学4回生の藤井君



◀ 双子の赤ちゃんに「ハロー！」

時代の社会人基礎力育成グランプリ近畿地区予選大会」で昨年末、優秀賞を受賞している。

関空での「キッズキャンパス」では、外国人と会話するお兄さん、お姉さんの活躍を横目に、小学生たちも勇気を出した。広い空港内でおもてなしシールを外国のお友達に手渡しして「ハロー」とご挨拶。国際人へ一歩近づいたようで、何だか誇らしい。頼もしい存在の大学生との距離が近くなり、将来の自分を夢みるいい機会ともなった。これからの未来を背負う子どもたちの教育と成長を応援する「大阪国際大学地域協働センター」。その果たす役割は大きい。

先月14日(土)は、JR関西国際空港駅で18人の小学生が同大学学生による「外国人旅行者へのおもてなしボランティアチームAKV」に合流した。ちなみに、この活動は同大学学生たちが外国人観光客に電車の利用法やチケット購入などの困り事をアシストして生きた語学に触れ、国際感覚を体得する実学で、「平成30年度人生100年